

No.J2118

How the Red Star Rose: Edgar Snow and Early Images of Mao Zedong

(赤い星は如何にして昇ったか—エドガー・スノーと毛沢東の初期イメージ)

京都大学 人文科学研究所 教授

石川 禎浩

もと臨川書店（京都市）より刊行した『赤い星は如何にして昇ったか——知られざる毛沢東の初期イメージ』の英語版（How the Red Star Rose: Edgar Snow and Early Images of Mao Zedong; 訳者：Joshua Fogel, カナダ ヨーク大学教授）を刊行した。本書はエドガー・スノーの古典的ルポルタージュ『中国の赤い星』によってセンセーショナルに紹介されるまで、毛沢東が中国内外でどのように紹介されたか、そして毛を世界に紹介した『中国の赤い星』がその後、関係国（中国、ソ連、日本など）でどのように扱われたかを解明したものである。中国のみならず、広く国際的な情報の交錯の中で生まれ出た毛の意外のイメージに関する研究をまとめた本書は、そのユニークなアプローチと高い考証水準によって、潜在的に世界大の関心を呼ぶものであり、それゆえ英語による世界への発信が求められていたものだった。

今回、りそなアジア・オセアニア財団の出版助成と翻訳者ジョシュア・フォーゲル教授の協力を得て、英語版を刊行することができた。翻訳原稿は 2021 年春までに完成・入稿しており、本来は 2021 年 7、8 月に刊行の見通しであったが、新型コロナウイルスの感染拡大、および香港での報道・出版への取締強化が進み、これにたいする政治的配慮などで出版界自体の活動が萎縮する事態となり、本書の刊行も予定より半年ほど遅れてしまう結果となった。ただし、訳者と編集者、そして出版社自体の努力により、完全な形での英語版出版が実現し、中国共産党の歴史にかんする挑戦的な学術著作の刊行が実現できたことの意義は極めて大きいといえるだろう。本書の刊行により、高い水準にある日本の中国学の成果が世界に示されたということは言うまでもないが、日に日に強まる中国の政治的圧力を受け、孤立感に包まれている観のある香港の出版界にとって、日本の民間財団からの支援は極めて大きな意味を持っている。出版助成の経済的な意義は言うに及ばず、中国共産党の公式見解とは異なる本書のような学術的著作の刊行が次第にはばかれるようになる中、財団の存在とその資助は、自由な学術・研究を支えようという国際的な力強い声援として、微妙な立場に揺れる香港の出版界に大いに評価されることであろう。